

令和 6 年度 岩手県 英語教育改善プラン

目標

「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を基にした評価の充実

○思考・判断を促す言語活動の充実に向けて、必然性のあるゴールに向かう指導と評価の一体化の理解促進を図る

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定・公表・達成状況の把握の割合が**増加**。
設定 公表 把握
R4_52.6% 28.6% 45.3%
R5_66.2% 41.3% 61.0%

②「児童が1人1台端末等を活用した授業」を実施した学校の割合が**増加**。
(R4_86.1% R5_89.6%)

①児童が学習者用デジタル教科書を活用した授業を実施した割合が全国と比べて**低い**。
(R5_66.2%)

②「外国語の授業が好き」と回答する児童の割合が**減少**。
(R4_76% R5_74%)
県学習定着度状況調査
児童質問紙（5年）

2. 要因分析

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を基にした、計画性のある指導と評価の一体化についての一連のサイクルの理解が少しずつ進んできた。公表及び達成状況の把握の意義を研修会等を通じて確認できた。

②研修会等を通じて各種調査結果等を確認したことで、活用についての有効性を確認できた。

①教師用デジタル教科書の活用にとどまることが多い。「個別最適な学び」の充実が課題であることの周知・徹底が図られていない。

②必然性のある言語活動をととした単元計画を、児童と共有し学ぶことの意義への理解が薄い。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②小中をつなぐ外国語教育推進研修会
全6教育事務所で実施。講義及び学習到達目標達成に向けた**モデル授業の参観**を通して、指導と評価の一体化について小・中学校の教員が**協議**し、授業力向上を目指す。

①②小学校外国語専科教員研修会
小学校外国語専科教員を対象とする研修会において、「CAN-DOリスト」を基に、評価サイクルのモデルを共有する。

①②授業力ブラッシュアップ事業
全6教育事務所で実施する、中学校外国語の授業改善研修会をととして、小学校との接続の視点を共有する。

①②小中をつなぐ外国語推進研修会（小中連携）
・児童と「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の共有を促進し、デジタル教科書の活用を含む**自律的な学習を促す**ことの重要性を確認する。（R5：ICT機器等を活用した効果的な指導に関する実証研究事業の成果共有）

・モデル授業提示の際は、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の「公表」の具体、「パフォーマンステスト」と評価の具体等についても示すこととし、必然性のある言語活動と**指導と評価の一体化の理解促進**を図る。

令和6年度 岩手県 英語教育改善プラン

目標

外国語科で育成を目指す資質・能力と基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることのできる教員の育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R5：38.4％⇒R6：47％）

○授業における、生徒の英語による言語活動の割合（R5：75.2％⇒R6：85％）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①教師の英語力の状況が改善
（R4:19.9％⇒R5:22.0％）

②ライティングテストの回数が増加

	R4		R5
1年生	3.3回	⇒	3.4回
2年生	3.7回	⇒	3.8回
3年生	4.0回	⇒	4.2回

未だ改善が必要な点

① R5全国学力・学習状況調査の教科調査の結果から、**全ての領域において、達成状況が不十分**である。
（平均正答率37％）

② R5全国学力・学習状況調査学校質問調査結果から、**学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の実践が未だ不十分**（英語の指導法に関する8項目の取組状況に課題）

③言語活動の割合が減少
（R4_83.8％ R5_75.2％）

④デジタル教科書の**使用割合は高いが、英語力に結びついていない**。
（R4_100％ R5_93.8％）

2. 要因分析

成果の要因として、以下が考えられる。

①対象年齢層を絞った事業展開（人材育成の観点から）

・採用における加点措置、訪問指導等

②成果を上げているベテラン教員の「書くこと」の実践について全県周知

②県独自調査における「書くこと」の経年比較問題の継続

教員の学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の実践が不十分であることの要因として以下が考えられる。

①②調査問題を活用した検証改善サイクルが確立されていない。

①②③授業アイデア例、調査結果報告書、MEXT Channel など、**授業づくりに関する資料等が有効に活用されていない**。

④英語力向上につながるデジタル教科書の効果的な活用実践例の不足が要因の1つと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

重点施策

調査結果に基づいた検証改善サイクルを確立し、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業を実践できる教員を育成するため、本県の教員等育成指標に基づき、以下の事業を展開する。

①②③授業アイデア例活用促進事業

対象：基礎力の形成期・実践力の向上期の教員

内容：研修と訪問をセットで実施。授業アイデア例を活用した検証改善サイクルの確立を通して、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業ができる教員を育成する。

①②③授業実践アイデア例教材開発事業

対象：実践力の向上期・実践力の充実期の教員

内容：研修と訪問をセットで実施。授業実践アイデア例の作成を通して、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業ができる教員を育成する。

①②③調査問題等教材活用による授業改善推進事業

各教育事務所が3年間で全ての教員を訪問。調査結果に基づいた検証改善サイクルの確立を推進し、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業ができる教員を育成する。

④デジタルの効果的活用による英語力向上事業

指定校方式により、4技能検定結果を生かしたデジタル教科書やメグビットの活用による英語力向上について研究し、実践の普及・拡大を図る。

令和6年度 岩手県 英語教育改善プラン

技能統合型の言語活動を通じて、身に付けさせたい資質・能力を育成する授業力の育成
外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成

目標

- CEFRA2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5: 48.5% ⇒ R6: 53%)
- CEFRB1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5: 12.5% ⇒ R6: 20%)
- 授業における、生徒の英語による言語活動の割合(R5: 82.6%⇒R6: 100%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①「CAN-DORリスト」形式による学習到達目標の設定状況及び達成状況の把握 (R5_100%)
- ②求められる教師の英語力 (CEFR B2レベル以上)を有する割合が、増加。(R4_67.8% R5_76.5%)

未だ改善が必要な点

- ①スピーキングとライティングテストの両方を実施した割合 (R4_76.4% R5_71.5%)
- ②授業中における教員の英語使用の割合 (R4_77.1% R5_64.6%)
- ③小高、中高との連携実施状況の割合 (R5:小_4.8% R5:中_25.4%)

2. 要因分析

- ①毎年各校にパフォーマンステスト計画と併せてCAN-DORリストの提出を求め、内容について確認している。
- ②ディベート活用研修会や英語授業に係る研修会を継続して実施することで、「まとまりでの授業づくり」による指導と評価の一体化及び、授業改善が進んでいる。

- ①「コミュニケーション英語」に比べて、「論理・表現」における実施割合が低下している。
- ①②「論理・表現Ⅰ」、「論理・表現Ⅱ」、「英語表現Ⅱ」において、複数の領域を結び付けた言語活動の質的改善が求められる。
- ③異校種における学校公開等の情報共有が得にくく、異校種の授業をお互いに見る機会が少なかった。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②①②CAN-DORリストに係る報告の継続
年間指導計画と結び付いた実効性のあるCAN-DORリスト作成の推進及び訪問指導での活用。
- ①②①②英語教育改善シート活用の強化
上位層の育成を目指した改善シートの活用及び英語教育実施状況調査結果等に基づく検証改善サイクルの構築と確立を目指す。
- ②②令和6年度「教師の英語力・指導力の向上のための実践的なオンライン研修」への参加促進
研修会参加を通じ英語力及び授業実践力の強化を図る。
- ②①②英語ディベート活用研修会（中高連携）
授業におけるディベート活動の導入を推進し、「論理・表現Ⅰ」、「論理・表現Ⅱ」における技能統合型の授業実施を目指す。
- ②①②③授業実践セミナー・研修会（異校種間連携）
学習指導要領を具体化した公開授業や研究協議及び研修会を通して、教員の授業力強化を図り、生徒の学力向上に資する。高等学校の授業実践を通して、異校種間で相互に生徒の実態や指導の在り方などについて理解を深める。
- ①②③英語訪問指導
教員の授業力の更なる向上や各校の学習指導上の課題の改善を図る。また、訪問を通じて生徒の資質・能力の向上や学習状況の改善に資するための授業づくりを推進する。さらに、異校種間での学校公開等の情報共有の工夫を図る。

目標達成状況一覧表

令和6年度様式（様式2）

岩手県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		51	48.5	53		55		57		59	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		18	12.5	20		22		24		26	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	82.6	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		80	71.5	82		84		86		88	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	85	77	86		87		88		89	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		70	76.5	72		74		76		78	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		100	64.6	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		45	38.4	47		49		51		53	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		85	75.2	86		87		88		89	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		97	91.7	98		99		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	75	71.5	77		79		80		82	
		達成状況の把握（％）	100	91	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		22	22	24		26		28		31	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		81	66.7	83		85		87		89	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	60	66.2	62		64		66		70	
		公表（％）	50	41.3	52		54		56		60	
		達成状況の把握（％）	50	61	52		54		56		60	